

山里で静かに余生を送る

〔藤倉水源地・秋田市山内〕



〔所在地〕秋田市山内字上台
 ※下流側の藤倉記念公園に駐車すると徒歩で堰堤下まで行ける。

水は大切。
 いにしえより、人々は水のあるところ
 に集落を形成してきた。
 手近に水がなければ、人知を尽くし
 て遠くからでも水を引いてきた。

秋田市中心部からクアドームザ・
 ブーンや太平山スキー場、オーパスのあ
 る仁別地区に向かう県道沿いに、古い
 砂防ダムのような土木施設を見るこ
 とができる。明治期に秋田市の上水道
 用の取水施設として建設された「藤
 倉水源地」の堰堤だ。

昭和48年に取水を雄物川に切り替
 えるまで、70年近くにわたってここか
 ら秋田市民に水が供給されていた。

取水施設としての役目を終えてか
 らも、外観上は現役当時のままの姿
 を残し、越流式の堰堤から滝のよう
 に水が流れ落ちる美しい水風景を現
 在まで見せてくれている。

お役御免となった施設とはいえ、そ
 の姿はあまりにも凛々しく、歴史的
 建造物の愛好家が全国から訪れては
 美しい姿を写真に収めている。日本の
 近代化に寄与した建造物として、近
 代化遺産としては群馬県の碓氷峠鉄
 道施設とともに第一号の国重要文化財
 の指定も受けている。(平成5年)

堰堤の真上に架かっている鉄骨の橋
 は管理用のため一般の人が渡ること
 はできないが、こんにちでは明治時代
 の鉄骨の道路橋は全国的にもほとん
 ど残っておらず、この橋は明治期鉄骨
 道路橋の10傑に入るとされているほ
 どの歴史的価値のあるもの。流水の
 白、木々の緑、そして青空とのコントラ
 ストも美しい。

現在のダム内は土砂が堆積し水深
 はほとんどないようだが、その流れの
 緩やかな水辺は水生動物や小鳥たち
 の憩いの場になっているようである。
 かつて秋田市民に水を送り続けた
 働き者は、今は隠居して山里で小さ
 な命を育みながら、静かに余生を送っ
 ているのである。

(文／己戸春策・イラスト／堀千里)